

令和6年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22041	事業名	鈴鹿関跡学術調査事業		評価分類	A1				
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()					担当部署				
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計				01:一般会計	
	基本施策	10:歴史文化を生かしたまちづくりの推進				款				10:教育費	
	施策の方向	03:鈴鹿関跡等の文化財の保存と活用				項				05:社会教育費	
重点プロジェクト	-				目	05:遺跡調査費					
事業期間	H 18 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	文化財保護法・亀山市文化財保護条例							
課			部	市民文化部							
			課	文化課 まちなみ文化財G							

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	平成18年度より継続的に実施した鈴鹿関跡範囲確認調査により西辺築地塀の存在が明らかとなり、遺跡範囲のごく一部が国史跡に指定されたが、全容解明には至っていない。今後、これらのごく一部を明らかにし、国史跡の追加指定を得ることで鈴鹿関跡の保護を図る必要がある。	鈴鹿関跡	国の史跡指定地の保存と公開活用を図るため、指定範囲の公有地化を図るとともに、保存活用計画を策定する。また、国の史跡に指定された範囲は、埋蔵文化財包蔵地としての鈴鹿関跡のごく一部分であるため、今後、学術的な調査を行い、国史跡追加指定により保護を図る。	国の史跡指定範囲の公有地化を行い、同指定地の整備・公開活用を図るための保存活用計画を策定する。また、学術調査専門委員会の指導・助言をいただきながら発掘調査等を行い、その成果をもって国の史跡の追加指定を目指す。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度				
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○学術調査専門委員会開催 ○総括調査報告書刊行 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○学術調査専門委員会開催 ○国史跡指定地公有地化 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○学術調査専門委員会開催 ○保存活用計画策定 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○学術調査専門委員会開催 ○国史跡追加指定意見具申 ○保存活用計画策定 ○重要遺跡範囲確認調査 ○啓発事業 				
	活動実績 (計画通り実施できたか)	市外の文化財保護団体を対象に鈴鹿関跡の現地案内を開催したほか、自治会を対象に出前講座を実施し、鈴鹿関跡の啓発を行う事が出来た。また、学術調査専門委員会を開催し、委員及び三重県教育委員会等の助言を得て、総括報告書の内容の検討と指定地から出土した遺物の実測や遺構の詳細図版の作成を行ったが報告書の刊行には至らなかった。	国史跡指定地である鈴鹿関跡の約3,500㎡を国庫補助事業を活用して公有地化を完了した。昨年度刊行に至らなかった総括報告書を刊行したほか、学術調査専門委員会の指導の下、今後の調査・研究の基礎データとなる城山の地形測量図を作成した。また、地元住民を対象とした出前講座により、鈴鹿関跡に関する普及活動を行った。	昨年度に引き続き調査・研究の基礎データとなる城山の地形測量を行い、赤色立体図を作成した。学術調査専門委員会指導・助言の下、今後の調査・研究の方向性の整理を行った。また、地元住民を対象とし、「亀山市の史跡」について出前講座を行い、鈴鹿関跡を含めた市内遺跡保護の重要性に関する啓発活動を行った。					
計画額	事業費	5,100千円	5,000千円	32,400千円	14,872千円	6,200千円	6,155千円	6,200千円	
		国・県支出金	2,300千円	2,700千円	26,600千円	9,845千円	2,600千円	1,899千円	2,600千円
		地方債		0千円		0千円		0千円	
		その他		0千円		0千円		0千円	
		一般財源	2,800千円	2,300千円	5,800千円	5,027千円	3,600千円	4,256千円	3,600千円
決算額	事業費	3,585千円	3,585千円	14,593千円	14,593千円	5,365千円	5,365千円		
		国・県支出金	1,112千円	1,112千円	8,973千円	8,973千円	1,899千円	1,899千円	
		地方債	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
		一般財源	2,473千円	2,473千円	5,620千円	5,620千円	3,466千円	3,466千円	
①期間内計画額(R4-7)		49,900千円	49,900千円	②期間外計画額(R8-)		-	①+②総計画額	49,900千円	

(令和6年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	6,155千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標 (C)	国史跡追加指定	活動		計画値	包括調査報告書刊行			国史跡追加指定意見具申
				実績値	包括調査報告書内容検討			
普及啓発活動回数	研究フォーラム、現地説明会、出前講座等啓発事業実施回数	活動	回	計画値	2	2	2	2
				実績値	2	1	1	
				計画値				
				実績値				

判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
⑤ 成果 (C)	B 城山全体の三次元地形測量(13.6h)を行い、その成果物として、地形の特徴を詳細に把握できる赤色立体図を県内で初めて作成した。これにより、鈴鹿関跡の追加指定に向け、築地塀の位置等について調査・研究を進めることができた。一方、出前講座等の普及啓発活動の回数が1回にとどまった。
	まずまず成果を得た

事業の対象	事業の目的
鈴鹿関跡	国の史跡指定地の保存と公開活用を図るため、指定範囲の公有地化を図るとともに、保存活用計画を策定する。また、国の史跡に指定された範囲は、埋蔵文化財包蔵地としての鈴鹿関跡のごく一部分であるため、今後、学術的な調査を行い、国史跡追加指定により保護を図る。

(再掲)

事業の達成状況等を踏まえた課題事項
⑥ 課題 (C)

鈴鹿関の全容解明に向けては、今後築地塀の延長線上を含めた広範囲での調査・研究が必要であり、測量図や出土遺物の検討等の基礎データを踏まえた発掘調査成果の蓄積が必要となる。この積み上げを経て、史跡指定範囲の拡大や鈴鹿関跡全体の保存管理計画策定が可能となるため、長期的な視点での取り組みが必要である。また、公有地化した国史跡指定地については、保存・活用の方法を具体的に検討する必要がある。一方、作成した赤色立体図については、HPへの掲載や、報道発表等を行うことによって、広く普及啓発に努める必要がある。

方向性	
⑦ 事業の展開 (A)	
継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する	
改善・見直し内容	
令和7年度で対応する(した)もの 鈴鹿関跡想定域全体の赤色立体図の作成を行うとともに、これまでの調査で出土した瓦の詳細な検討により、今後の調査研究の方向性を見据える基礎データの蓄積を図る。	令和8年度以降で対応するもの 長期的展望に立った調査研究・保存活用の体制を強化する。国史跡指定地を含む西辺築地塀跡の一带の詳細な地形や出土遺物の三次元データ化等の基礎データを蓄積し、それに基づく学術調査の継続と、鈴鹿関跡を重層的な関地域の歴史文化の魅力として情報発信を行う。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
⑧ 履歴				
成果判定	B	A	B	
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	

1次評価者	市民文化部 文化課 まちなみ文化財GL 豊田親臣
最終評価者	市民文化部 文化課 課長 井上和哉